

日産財団ニュースレター (第20号)

2016年2月発行

はじめに

日産財団では、理科教育助成対象校・団体の1年目の活動状況を把握するため助成対象者への訪問を実施しました。それぞれの学校や団体の実践内容を、日産財団ニュースレターで紹介してきましたが、本20号で2014年度助成対象者全32件の実践の紹介を完了します。

◆ 2014年度助成対象者の活動紹介 (2015年12月から2016年2月の間で訪問した7校)

栃木県 栃木市立栃木第四小学校

4年生の「もののあたためり方」の授業で、熱で空気があたると上昇気流が生じ、上方にある風車が回るといふ現象を多種類の自作教材の風車で見せ、物質の熱伝導に関心をもたせる。iPadを記録と発表に活用し、各班の映像をAppleTV経由で大型モニターに再生し児童が発表。



福岡県 嘉麻市立稲築東小学校



1年間の学習の内容や成果をまとめ、全学年全クラスで発表。子ども一人ひとりの自らの学びに対する達成感・成就感を高める初めての試みの「東っ子発表会」。写真は、理科に関する発表や日産工場の社会見学の写真。

神奈川県 横浜市立権太坂小学校

4年生の「もののあたためり方」の授業。水はどのような仕組みで温まるのだろうかを、絵を描かせながら予想させた後、サーモインクとタバスコ入りの水を入れたビーカーを同時に火にかけて、水の温まり方と温まる時の水の動きを児童に視覚的に捉えさせていた。



神奈川県 厚木市立上荻野小学校



学校農園で採れた津久井在来大豆を用いたお豆腐作り。3年生がお豆腐屋さんの指導のもと、ボランティアの保護者にも手伝って貰いながら大豆からお豆腐を作って、おいしく食べました。

神奈川県 横浜市立三保小学校

「持続可能な社会づくりを担う児童の育成」がテーマの生活科、理科、社会科、総合的な学習の時間等の校内授業研究会で、全学年で研究授業開催。理科は3年生の「風のはたらき」の授業で、送風機と風車で、風の力を強くすると、風車の回る速さが大きくなり、風車の軸に付けた糸を巻く力が増して、より錘を吊り上げられることを実験で確認。



栃木県 宇都宮市立豊郷中学校



3年4組のエネルギー資源とその利用の単元。自転車を回し発電機で40Wの白熱灯をつける。手回し発電機を複数つなげることで100Wの電球も点灯させられる。手回し発電機では熱に逃げるロスがあることなどを学ぶ。LED電球ではロスが少ないことを回し灯籠で確認する。授業の最後でエネルギーロスは環境問題へつながることをグループやクラス全体で論議し確認する授業。

福島県 会津若松市立謹教小学校

6年生の「電気と私たちの暮らし」で、コンデンサに同じ電気の量を蓄え、豆電球と発光ダイオード(LED)の点灯時間を比べる。先生が豆電球、LED点灯の簡単な実験を演示するが手回し発電機を回す間隔を意図的に違え条件制御の重要性を確認させるなどの工夫があった。児童はLEDの点灯時間の長さに驚いていた。



2014年度助成対象者32件(神奈川県11件、福岡県7件、栃木県4件、福島県10件)を9ヶ月かけて訪問いたしました。各校とも工夫をこらした研究内容で、なによりも子どもたちが目を輝かせて実践に取り組んでいる姿が焼き付いています。この子たちが、5年後10年後、どのように成長しているかとても楽しみです。日産財団は、未来に夢を持てる社会の実現をめざし、人財育成の機会創出に貢献します。ひとを育て、未来に夢を...